

特別企画 島根から「世界平和構想」発信



韓日の友好が地球の未来拓く

桃山学院大学 経営学部教授 全在紋氏



日本の大都市に、真の韓日友好を実現したいと考えて取り組みを進める企業家がいる。小松昭夫氏（島根県松江市、小松電機産業社長）がその人だ。小松社長は島根・鳥取県境中海を拠点に、韓日友好をきっかけとして世界平和を前進させるための一大プロジェクト「ニューワールド地球ネット」モデル事業構想を立案、10年の歳月をかけて練り上げてきた。このたびの金大中大統領の訪日を受けて、韓日両国が「21世紀に向けた新たなパートナーシップ」をめざして歩みはじめた今、まさにタイムリーな構想発表といえる。その小松社長と全在紋・桃山学院大学経営学部教授に、同構想の意義と韓日の未来について語り合ってもらった。

小松電機産業社長 小松昭夫氏



竹島(独島)を「地球共生・縁むすびの島」に

全 社長が進めてきた「心の首都・松江市市街地再開発構想」。「未来」についてお聞きした。来を拓く研究・教育機関。同プロジェクトは島根設立の4プロジェクトで構成されている。鳥取県境の中海を起点、小松 歴史記念館について。北朝鮮、そして連合軍として参戦した国々も含めた「地球共生・縁むすびの島」とす。われは既成概念を打破できる。この島を中心に、現代の北朝鮮金剛山観光事業。21世紀に韓国と日本が共に生きていくために、地球共生・縁むすびの島」という構想は賛否両論あると思ふが、真剣に検討してみよう。小松 歴史問題の解決は、関係諸国に絶大な経

ジョン・ジェムン 1945年奈良県生まれ。在日2世。横浜市立大学卒業。ソウル大学大学院修士課程、神戸大学大学院博士課程修了。現在、桃山学院大学経営学部、大学院経営学研究所教授。韓国政府の委託を受けて、在日民族教育の現状と未来に関する研究論文を発表。

全 社長はベンチャービジネスの旗手とかがつて、在日韓国人は差別が。あつて堅実な動機は無い。飛躍的に拡大、今日に至るまで。そのための商売を始めた。事業に障害は付きもの。神奈川県で数年前に行われた生活実態調査でも、日本人で自営業者は10%。韓国人・中国人は40%だ。社長の成功は、在日韓国人にとって参考になる点が多いと思う。まず経営者の心構えをお聞きしたい。

東洋の道義文化が大切 人間は歴史の中に学ぶ

小松 先日、提案メンバーの一人で、天路経営道を主唱されている柳ハイネット・コンサルティング社長・角田謙之氏より、島根県には、シベリア抑留中1954年に亡くなった山本幡男という偉大な方がある。幡男と生いっしょに育ち、幡男の生き方を学ぶ。幡男の生き方を学ぶ。幡男の生き方を学ぶ。幡男の生き方を学ぶ。

こまつ あきお 1944年島根県生まれ。島根県立松江工業高等学校機械科卒業。73年、小松産業を設立。85年、シートシャッター「門番」を開発・発表、全国展開。94年、HNS（人間・自然・科学）研究所設立。ベンチャービジネスの旗手として中小企業研究センター賞、ニュービジネス大賞、科学技術庁注目発明選定証、地域活性化貢献企業賞など数々の賞を受ける。資本金1億円。従業員85人。年商42億円。

歴史知って関係は 日本は韓国に技

小松 20年ほど前、取引先で韓国の招待で戒厳令下の韓国へ観光に行った。旅の途中、私と友人が夜タクシーに乗っていたところ、他の客が相乗りしてきた。私が日本人と分かり「町に放り出す」と言ったが、友人と運転手は「私の客だ」と言



韓国赤十字社を訪れ、鄭元植総裁(右)に北朝鮮の食料危機への支援金を手渡す小松社長(98年7月)

長い時間をかけてという考えもあるが、子孫の問題を残さず、私たちの世代で解決すべきだと思つてい。ベンチャースピリットとは、「自分の代で解決すべき」と考える精神のこと。このプロジェクトは、心理的、経済的に新時代の突破口になることを確信する。全 国連は現在、豆満江クリントン大統領訪日相次ぐ。環境問題、世界的社会問題の解決をテーマに、多くの方々の知恵により長期的・多面的に

豆満江開発計画とも合致